

編集 後記

西九州大学リハビリテーション学部研究紀要も13巻となった。

「13」の数字を調べると以下のような解説があった。

“西洋で「13」は忌み数とされ避けられる傾向があるのが知られているが、イスラーム圏にもこの数字を嫌う人はいるという。この「13のタブー」の起源には諸説ある。イエス・キリストが処刑されたのが13日の金曜日だったという風聞もあれば、1970年のアメリカのアポロ計画におけるアポロ13号の事故と結びつける人もいる。しかし、日本人にとってはむしろ13は縁起の良い数字だったりする。神道では「3」「5」「7」という奇数は縁起のいい数字であり、「十三詣」「十三参り」といった子供の健やかな成長を願う儀式もある。”

これらから、「13」の数字に関して日本と西洋では異なった見解であった。

個人的には「13」の数字は嫌いではない。子供の時に観たテレビアニメの「侍ジャイアンツ」に登場した助っ人外人ウルフの背番号が「13」であった。また憧れの俳優・高倉健が主演した実写版映画が「ゴルゴ13」であったから。さらに私の誕生日が1月30日で「1」と「3」が入る。ここまできるとこじつけになるのでやめます。

結論としては、今回も皆様の投稿のお陰で紀要13巻が発刊できることに心より感謝申し上げます。
(*紀要の編集後記を楽しみにしている読者もいて、投稿論文以上に書くのに力が入ります。)

2020年5月13日 (スティービーワンダーの誕生日満70歳)

宮原洋八